

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25501009

研究課題名(和文)クリエイティブツーリズムの成立条件と創造都市連携の可能性

研究課題名(英文)Creative Tourism and Possibility of Creative Cities Network

研究代表者

佐々木 雅幸(SASAKI, Masayuki)

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：50154000

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：クリエイティブツーリズムとはマストツーリズムの弊害を避け、地域固有の文化資源を生かした新しいタイプのツーリズムであり、観光客と地域住民とが感動や体験を共有することにより新たな価値を生み出し、地域の持続的発展に貢献するものである。これを世界に先駆けて提唱し、推進している米国サンタフェ市では、行政、アート関係者、ホテル観光業界が連携してギャラリー・アトリエ・美術館を訪問する多様なツアーコースが提供されている。この取り組みはユネスコ創造都市ネットワークを通じて広がり、日本では同ネットワークに加盟する金沢市、篠山市などでの取り組みが始まっており都市連携の可能性が高まっている。

研究成果の概要(英文)：Avoiding an evil of mass tourism, the creative tourism is a new type of tourism which made use of local inherent culture resources and brings about the new value through sharing an impression and an experience by a tourist and local peoples, and contributes to sustainable regional development. US Santa Fe city proposes creative tourism ahead of the world and promotes it. City, art organisation, hotel and sightseeing industry cooperate to create diverse tour courses that visit a gallery atelier and the art museum. The creative tourism plan spread through UNESCO creative cities network, and in Japan, a creative tourism project in Kanazawa city and Sasayama city which join UNESCO network begins and possibility of the city cooperation increases.

研究分野：文化経済学

キーワード：クリエイティブツーリズム ユネスコ創造都市 サンタフェ 金沢

### 1. 研究開始当初の背景

80年ぶりの世界大恐慌の到来と通貨金融不安により、自動車やハイテク家電などの大量生産型耐久消費財産業の不振は構造的なものとなった。少なくとも先進国の消費市場では、従来と同様の機能(経済価値)を持つ製品は見向きもされず、消費者の嗜好や欲求を深く分析し、新たな感動を与える「経験価値や文化価値」をもつ財やサービスの創出とそのための生産システムへの転換が緊急に求められている。グローバル化と知識情報経済社会への本格的な移行に伴って、欧米ではすでに、製造業を中心とした都市が衰退する一方で、映像・音楽・芸術などをコンテンツとする「創造的文化産業」がクラスターを形成して、ハイテク技術者やアーティスト・クリエイターなどの「創造階級」が好んで暮らす「創造都市」の発展に大きな注目が集まっている。この波は、日本や経済発展の著しい東アジアの都市・地域にも到達して、日本国内では金沢、横浜、札幌、大阪、福岡など、アジア諸地域では香港やシンガポール、上海、ソウル、釜山等が創造的文化産業の振興政策を策定し、創造都市を政策目標に掲げて、その実現を目指す動きが強まりつつあり、創造的文化産業における国際分業の展開にもとづく「創造都市の共生的連携と相互発展」のための政策の検討が新たな課題となっている。

一方、観光業は成長分野として位置づけられているにもかかわらず、従来型のマストゥリズムから脱却しておらず、世界文化遺産などの指定を受けた地域への一時的な観光客の集中による観光公害とも言うべき現象が続いている。こうした問題点を克服し、文化財を「文化資本」として把握することにより、その適切な保存と活用を通じた持続的な観光、すなわち、カルチャーツーリズムへの脱皮が、豪州の文化経済学者のD.Throsby等によって提唱され、ユネスコ文化局などが主催した国際シンポジウムが開催されてきた。

中でも英国の創造産業研究者であるA.Pratt等はクリエイティブツーリズムによってその地域の多様な創造的文化産業への波及効果を通じて、労働力の多様性と人的資本の高度化をもたらす、新しい創造経済を進展させるモデルを提示している。つまり、文化遺産の鑑賞を主体とするカルチャーツーリズムからさらに進んで、クリエイティブツーリズムは現に生きて活動している創造的文化産業群へのインパクトを重視していると言えるであろう。

こうした問題提起を受けて、2008年からユネスコ創造都市である米国のサンタフェがユネスコと連携しつつ、クリエイティブツーリズムの社会実験を続けており日本国内でもユネスコ創造都市である金沢市と篠山市が地元のNPOなどと協力してクリエイティブツーリズムの社会実験を開始している。(金沢クリエイティブツーリズム実行委員会

『金沢クリエイティブツーリズム社会実験報告書』、2011)

「本物の価値と感動」に基づく新たな日本型のクリエイティブツーリズムの成立条件が実証的理論的に明らかにされるならば、停滞する観光業界を革新する契機となる。同時に、受け入れ側の都市や地域にとっても、大恐慌の中での景気後退や産業空洞化による衰退からの脱却方策の1つとして大いに有望なものと思われる。

### 2. 研究の目的

本研究においては、従来のマストゥリズムなどと比較して「**クリエイティブツーリズム**」の特質を明らかにするため、1)芸術文化コンテンツの創造者(アーティスト、クリエイター)やアートNPOによる**創造刺激型交流**、2)創造性が発揮されやすい流通機構や市場の形成に向けた**創造的政策交流**、3)さらには伝統文化や伝統芸能を世界市場で競争力ある創造的文化産業に転化する上での革新的な技法や**創造的技能交流**のあり方について検討する。同時に、4)創造都市が成長を志向して互いに過当競争する事態を避け、相互に共生的互恵的に発展するための連携やネットワークを進める上で不可欠な**市民相互の経験交流**などに分けて分析し、推進主体の在り方、予算・政策面の工夫などについても最適なモデルを検討する。

### 3. 研究の方法

クリエイティブツーリズムを世界に先駆けて提唱し、推進しているサンタフェ市前副市長の協力を得て現地調査を行い、上記の4点を分析する。また、日本において、サンタフェと交流しながらクリエイティブツーリズムの社会実験を積み上げているNPO金沢クリエイティブツーリズム推進機構の協力を得て、その成果を分析し、成果と問題点を明らかにする。

### 4. 研究成果

現地調査及び文献資料によって、サンタフェ市における行政、アート関係者、ホテル観光業界が連携してギャラリー・アトリエ・美術館を訪問する200以上のクリエイティブツアーコースが提供されていること、市内ホテルのコンシェルジェが窓口となり2、3日の短期滞在者から1ヶ月程度の長期滞在者までの多様なニーズにこたえることが可能となっていること、このシステムを構築する上で、サンタフェ市役所の前副市長Rebecca Wurzbarger、同市のアーツコミッションが果たした役割は大きなものがあり、行政が主導的にアート関係団体やホテル観光業界を巻き込み、実績を重ねていることがあきらかになった。同市の資料によれば市内のギャラリー、アート団体、ホテルなど創造産業は毎年11億ドルを稼ぎ、市経済の40%を占めており、まさにサンタフェ市の持続的・地域発展の中核的な役割を演じていることが分かった。

特に、1)アーティスト、クリエイターな

ど芸術文化コンテンツの創造者が市内に多数のアトリエを構えて、ツーリストと交流しあう環境が豊かであること、2)多数のギャラリーやショップにより、ニューヨークに次ぐ全米第2位のアート市場が形成されており、魅力的なアート関連ビジネスが展開していること、3)市内にはプエブロインディアンなどの原住民や、スペイン、メキシコ統治時代の博物館美術館に加えて、オキーフなど現代アート美術館が集積し、伝統から現代までの多様な美術工芸品とそれを支える技能者が集まり、芸術系大学など養成機関も多数存在しており、多様な文化資本の集積が見られる。4)ユネスコ創造都市ネットワークに加盟していることを十分に活用して、国際シンポジウムやアートフェアに参加する市民相互の交流も進んでいる。

このようなシステムを構築する上で、サンタフェ市役所の前副市長 Rebecca Wurzbarger、同市のアーツコミッションが果たした役割は大きなものがあり、行政が主導的にアート関係団体やホテル観光業界を巻き込み、実績を重ねている。同市の資料によれば市内のギャラリー、アート団体、ホテルなど創造産業は毎年11億ドルを稼ぎ、市経済の40%を占めている。

金沢市では2009年にユネスコ創造都市に認定されて、記念シンポジウムにサンタフェの前副市長を招いたのが契機となり、NPO金沢クリエイティブツーリズム推進機構が設立されて、金沢21世紀美術館や金沢美術工芸大学などのアート関係者・団体と市内ホテルと連携して、社会実験を積み重ねている。

特に、金沢固有の文化資源である町家訪問との組み合わせや金沢21世紀美術館における「工芸未来派」の展開や金沢工芸フェアなど新規事業との融合による創造都市づくりへと向かっているところが特徴的である。これは、兼六園や金沢城跡、伝統工芸・芸能など伝統的な文化資本と、21世紀美術館に代表される現代アート美術館やギャラリー群など、サンタフェと同様に多様な文化資本の集積がクリエイティブツーリズムに不可欠の要素であることを示している。

他方で、市内ホテルとの連携は金沢では着手されたばかりで、サンタフェのような成熟したシステムには至っておらず、課題が残っている。

また、2015年にユネスコに加盟した篠山市でも古民家を活用した食と器のビエンナーレなどの展開により、農村型のクリエイティブツーリズムの展開に向けた取り組みを本格化しており、全国的な注目を集めている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

Masayuki SASAKI "Creative Cities of

the 21century: Their Diversity and Network" *The Doshisha University Economic Review*, Vol.67 NO.4, 2016 査読無

佐々木 雅幸「伝統工芸と創造都市：京都と金沢からの創造」『地域開発』602号, pp.18-24, 2014年、査読無

Masayuki SASAKI "Cultural Cluster and Cityscape in Kanazawa and Yokohama" 『季刊 経済学研究』 36巻 1.2号 pp59-78, 2013、査読無

〔学会発表〕(計 5件)

Masayuki SASAKI "Creative City Kanazawa and Biocultural Diversity" Valuing and Evaluating Creativity for Sustainable Development at Mid Sweden University, Sweden, Ostersund, 2016, Sept.13

Masayuki SASAKI "The Resilient Creative City in Japan" International Conference on Cultural Policy Research South Korea, Seoul 2016, July, 7

Masayuki SASAKI "Traditional Cultural Heritage and Creative Industry" アジア欧州会議 ASEM2016 の文化大臣会合、韓国、光州市 2016年6月23-24日

Masayuki SASAKI "Creative Cities of the 21century: Their Diversity and Network"

ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会、石川県、金沢市、全日空ホテル 2015年5月26日

Masayuki SASAKI "Creative Cities in Japan: It's Diversity and Network"

アジア欧州会議 ASEM2014 の文化大臣会合、オランダ、ロッテルダム、2014年10月20-21日

〔図書〕(計 1件)

佐々木 雅幸、川井田 祥子『創造農村：過疎をクリエイティブに生きる戦略』学芸出版社、2014年、270ページ(1-27ページ)。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

佐々木 雅幸 (SASAKI, Masayuki)  
同志社大学・経済学部・教授  
研究者番号：50154000

##### (2) 研究分担者

川井田 祥子 (Kawaida, Sachiko)  
同志社大学・創造経済研究センター・特別  
研究員  
研究者番号：40567632

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

Rebecca Wurzburger